6th
2012秋

エリアF

シリーズ特集 Part2

表現する人々に聞いた

アトリエってどんなところ？

9月初旬、立川市錦1丁目にある「石田倉庫アトリエ」を訪問した。蔦のからまる2階建ての倉庫2棟とビル1棟には、現代美術家・家具工房・陶芸家・金属工芸家など、さまざまなジャンルの作家19名が制作の場を持つ。つまり、"アトリエの集合体"だ。制作に没頭できる個々の「アトリエ」と、同じ敷地内で制作する仲間たちの存在が、「石田倉庫アトリエ」の大きな特徴といえる。ものづくりをする人なら誰でも欲しいと願う、制作のためのスペース「アトリエ」。そこは作家にとって、どのような場所なのか？"作品"や"表現"に、どのように影響を与えるのだろうか？

今回、石田倉庫アトリエで表現を追求する作家の方々に、「あなたにとってアトリエとはどんなところ」かを伺った。

「石田倉庫アトリエ」

約30数年前。小麦粉の倉庫だった石田倉庫がアトリエに変わった。きっかけは、一人の芸大生が倉庫の一部をアトリエとして借りたこと。その後、口コミで次第に様々なジャンルの作家が集まるようになり、入れ替わり立ち替わりで人数も増え、現在に至っている。また、2010年に放映された「素直になれなくて」(フジテレビ)では、カジ(浜丈)の住むアパートとして登場している。
http://www.ishida-soko.com

写真：石田倉庫アトリエ内にある山上一郎さんのアトリエ。

思いきりなんでもできる、制作に集中できる場所

「メグスリノキ」 1999年 紙／テンペラ

群馬 直美（画家）

自宅だと"生活"もあるので、ご飯を食べるときには全部片付けなくてはならないけど、アトリエは片付ける必要がないので制作に没頭できます（笑）。それに"ここ"は元々倉庫だったので天井が高く、大きな制作物でも思いきり取り組めます。自分と同じように"もの づくり"に携わっている人が近くにいるのは、心強いし励みになります。

アイデアをゆっくり考えられる場所、そして…

「Symbols」 2010年 合板・木・アクリル ほか

塩川 岳（現代美術家）

アトリエは、制作するための場所であり、個人的な考えやアイデアをゆっくり考える場でもあります。ただ石田倉庫の場合は、アートという括りでもいろいろなジャンルの仲間がいて横のつながりができています。ここにくれば、誰かいるし、賑やかだし、情報交換や技術交換ができるのも面白いし、お互いのモチベーションもあがります。何よりありがたいのは、専門的な機械を扱っている木工や鉄鋼などのプロ（作家）がいて、僕らが苦手な技術的なことを教えてもらえることです。

毎日通う場所であり、刺激を受ける場所

鈴木 佳世（陶芸）

「動物シリーズ　そう」 2012年 陶土

私にとってアトリエは"毎日通ってくる場所"ですが、"ここ"には、いろいろなジャンルの人がいるので刺激も受けます。他の作家さんがオブジェを制作していると、自然と刺激をうけて自分の中に蓄えられて、制作するものに影響して、ときには土でオブジェを作ったりもします。年に何回か幼稚園の子どもたちのためのワークショップをやっていますが、子どもたちにとってもアトリエは新鮮な場所のようで、のびのびと楽しんで作品作りにも集中してくれます。

「ボトルアートを趣味でやっています。アトリエメンバーが頑張っているから、私もそれについていくような感じです(笑)。皆には自分の作品をたくさん作って、たくさんの人に知ってもらえればいいし、それで有名になってもらえれば嬉しいですね。」

石田倉庫アトリエ オーナー
石田高章(ボトルアート)

「あつくてのびちゃった」2011年 ボトル

石田幸枝(手工芸)
「ブーケ(花束)」2009年 布

山上一郎(家具)
「赤い屋根の小屋」2009年
国営昭和記念公園・立川

制作に没頭できる所、ときには情報交換の場所。

宮坂 省吾(現代美術)
「スペースが広いのが気に入っています。年に一度アトリエ祭があるので、僕たちのアトリエをたくさんの方に見に来てほしいです。」

周りの人たちを見ると私も頑張ろう、と思う場所。

栗真由美(現代美術)

「以前は完璧に作り込む金属工芸をやっていて、一人で制作すると煮詰まる感じがあったけれど、"ここ"に来てから周囲からの刺激を受け、金属工芸から現代美術へと作品が変化しました。」

今年もオープンアトリエを開催！

第9回　石田倉庫のアートな2日間「ナニココ?!」

作品の展示はもちろん、制作現場をガイド付きで見られる「アトリエツアー」、音楽パフォーマンス、ライブペイントなど盛りだくさん。出店コーナーでは、おいしい料理も食べられます。アトリエで過ごすアートな休日はいかが?

2012年11月3日(土)4日(日)
10:00～17:00　入場無料

場所：東京都立川市富士見町 2-32-27
石田倉庫アトリエ及び敷地内
お問い合わせ：080-3211-9820

駅から　■ JR中央線・南武線：「立川」駅北口、多摩都市モノレール：「立川北」駅より徒歩 15分　バスの場合、バス乗り場 10番・11番(立 80、立 81、立 82系統) 乗車 5分、「富士見町」下車すぐ　■ JR青梅線「西立川」駅南口より徒歩 10分　＊車でのご来場はご遠慮下さい。ハンディキャップの方の駐車スペースは若干ございます。

清水美和(絵本)
左：アトリエ
右：「train on the greengrass」2011年 水彩

竹下千尋(油絵)
右：「six sax」2011年
ミクストメディア

制作の場、コミュニケーションの場。

「作家同士、制作中に頻繁に出入りすることはないけれど、灯りがついていると頑張っているな！ 私も頑張らなくちゃ！と思います。」

「ドローイング」2012年 画用紙、鉛筆

取材を終えて

石田倉庫アトリエには、どんな表現も気負いなく受け入れる「懐の大きさ」があるように感じた。アトリエは、創作意欲のスイッチをオンにしてくれる場所。作家たちは制作に集中できる場所と仲間からの刺激を得て成長し、のびやかな作品を生みだしていく。表現が生まれる場所には、心地よいエネルギーがあふれていた。

アトリエとは、自分自身と対話する場所。楽しい反面、苦悩し葛藤し、自身に問い続ける。そして、自分なりの「答え＝作品」を生み出す場でもある。次号では、作家たちが作品を発表する「展示」の場を訪れてみる。

（つづく）

次回予告「表現の生まれるところ Part 3」では作品の発表の場を訪ねます。お楽しみに。

取材・文／川野ヒロミ　写真／笠原美恵　レイアウト／小出正子・エリトア編集部　取材協力／石田倉庫アトリエ

粟津夕貴(版画)
写真中央4作品
「In a veil」2011年
アクリルガッシュ、毛糸によるミクストメディア

生活の一部。アトリエの無い生活なんて考えられませんね。

「Perola Atlantica（ペローラアトランチカ）」2011年　デザイン・制作・施工
ミクストミディア

伊藤 卓義(美術造形)

ここは秘密基地のような場所。

関田 孝将(金属造形)
「もりでくらしたいなぁ、なっているので、アトリエは「森」のような雰囲気です。」

「ランプ」2011年 鉄、ガラス

作品を作る場所、実験をする場所。

「いろいろな素材を扱っている人がいるから、いろいろな技法や考え方を多角的に見られるようになりました。」

小沢 敦志(金属)
「compression sculpture」2011年
さまざまな鉄製品を圧縮

仕事場、そして真剣に遊ぶ場所。　高井 吉一(金属)

「仕切りがあると作るものが制限されてしまうので、私達のスペースはあえて仕切りを作らなかったんです。」

佐藤 広子(現代美術)
「びーたん」2011年
カラーマーメイド紙(水色)、アクリル絵具

いろいろなことが試せる場所。

寺西麻紀(ガラス)
右：アトリエ
左：「ほくろ星」2012年
ボロシリケイトガラス、星の砂、顔料

伊藤 まどか(金属)
「流れる」2010年 鉄

ここはとても大切な場所。頑張れる場所。

X KAKERU ART 第2回

アートと人・もの・場所が関わる現場を
とりあげる不定期連載
「X（かける）アート」

麻布十番ギャラリーの展示会場には個性的な作品がたくさん！「どの作品も素晴らしい」と大平さん。

2012年夏、麻布十番ギャラリーで開かれたアトリエ jet's（ジェッツ）とさをり織り手織工房じょうたのコラボ展示、「色を織る展」。この展示に、今春、エイブルアート・カンパニーの登録作家となったアーティストが出展すると聞き、ギャラリーを訪れた。

「アトリエ jet's」は、社会福祉法人長尾福祉会セルプきたかせ（障害のある方々がはたらく施設）内のアトリエ活動。利用者さんの作品を世に発信していくために、積極的に展示活動を行っている。

「施設内の余暇としてアトリエを始めたところ、作品が素晴らしい出来なので発表や販売をし、そのお金が本人たちへ還るシステムを作りました。現在も活動を続けています。」アトリエ jet's 講師の大平暁（おおだいら さとる）さんはそう語る。

利用者さんの中には、アトリエに通い始めてからめきめきと才能を開花させた人もいる。今春エイブルアート・カンパニーからデビューを果たした清井了支（せいいさとし）さんも、そのひとりだ。最初の頃の清井さんは、画面に点々を描く程度、次第に藻のような有機的な形を描き始め、最近はカラフルでダイナミックな線を描くようになった。まるで、点・線・面の芸術論をなぞらえているかのように、清井さんの世界はどんどん広がっていく。

「描きたいものは、すでに一人一人の心の中にあるんです。だからアトリエではこれを描きましょう、といった類いの課題は一切意しません。揃えるのは絵具や場所など、絵が描ける環境です。あとは、みんながもともと持っている資質を、ちょっと刺激してあげること。」と、大平さん。

誰もがアーティストとしての可能性を秘めていて、それが花開くきっかけは生活の中に潜んでいるのかもしれない。

近い将来、商品化された清井さんの作品を目にする日が来るだろう。

アトリエ jet's の大平さん。

＊エイブルアート・カンパニー
障害のある人がアートを仕事にできるような環境をつくることを目的に設立された障害者支援施設。《福祉×アート×暮らし》をテーマに、広告や商品のデザインに使用していただくことを仲介し仕事につなげている。http://www.able-art.com

展示会場の清井さんの作品。画面にちりばめられたリズミカルな線・線と余白が美しい、印象的な作品だ。

information

①アトリエ jet's
http://www.nagaof.jp/kitakase/atelier.html
②手織工房じょうた
東京・吉祥寺と自由が丘にある「さをり織り」の手織工房。
http://www.jota28.com/
③社会福祉法人長尾福祉会セルプきたかせ
〒212-0057 神奈川県川崎市幸区北加瀬 1-31-5
tel044-580-3080 mail kitakase@nagaof.jp
http://www.nagaof/kitakase/atelier.html

エイブルアート・カンパニーからデビューした清井了支さん。カメラを向けるとピースサインでポーズ。

取材協力：麻布十番ギャラリー　撮影・文・レイアウト：笠原 美恵

星空のマント

〜詩画集「物語の始まる日」より〜

天かける夜の使者
背後に翻す　星空のマント
地上には　一日の仕事を終えた　いきものたち

今日も　いっぱい　がんばって
ほてった体と
ほてった大地を

星空のマントが
静かに　優しく　包んでいく

「星空のマント」
2009年
約25×36cm
水彩、色鉛筆

information

創作絵本「いっついのはね」、詩画集「物語の始まる日」を手製本版と電子書籍版で販売しております。

【手製本版取り扱い店】
・ポレポレ書舗（http://www.polepole-shoho.com/）
・sypca（http://syoca.jp/）

【電子書籍版URL】
・いっついのはね（http://p.booklog.jp/book/20707）
・物語の始まる日（http://p.booklog.jp/book/18741）

立原 圭子　*Tachihara Keiko*

武蔵野美術大学短期大学部美術科卒業。2007年よりフリーのイラストレーターとして活動。主な仕事にカレンダーや年賀状素材集など。展示会や他ジャンル作家とのコラボレーション企画などを通じて活動の幅を広げる。絵本づくりはライフワークと決め、こつこつと製作中。作品サイト http://k-coubou.sakura.ne.jp/

僕と鉄

第六鋼　マルコヴィッチ、竣工。

右：Che Debaraの処女作。左上下：ペンキ塗りアート集団"Che Debara"、制作中。

高橋輝雄 *Takahashi Teruo*

「心も記憶も酸化する」をコンセプトに、鉄を雨で錆びさせた立体や平面作品を制作。また、呼吸と唾によるドローイング、白と黒の絵画も手がける。東京、ロンドン、トロントにて展示活動中。

http://www.teruo-takahashi.jp

Voyage with the Fish

上：工事監督の深草氏が考案した、壁直接打込み方式トイレのタオル掛け。（ステンレス製）

右：家族三人が頭を傾けて、天井の低い部屋に立っている姿を表現した、マルコヴィッチな家の看板。

建築家の佐々木善樹氏との出会いから1年半近く、マルコヴィッチな家が完成した。立体造形をしているうちに、建築のプロセスにも関わってみたくなった。丁度、住んでいた場所が、手狭になり、引越しを考えていたので、家を作ることにしたのだ。

この家には、佐々木氏が設計し、そこに僕や妻、息子のケントのいろいろなインプットが詰まっている。妻はコンセプトや全体的なところ、ロフト空間をピアノ室にしてしまったりもした。僕は、家の看板や、リビングの照明、トイレのドアなどを制作した。この家を施工した山菱工務店の工事監督である深草洋三氏も、ユニークなアイデアで、僕らの家作りをサポートしてくれた。

ある日、佐々木氏と深草氏と3人で飲みに行った時には、壁に直接打ち込んで設置する方式のタオル掛けのアイデアも生まれた。僕が制作したプロトタイプの作品を見た深草氏が「これは、ラフっぽく、直接壁に打ち込むようにするのはどうでしょう」と言ったのが始まりだ。

そして、謎のペンキ塗りアート集団「Che Debara」のペンキ塗りパフォーマンスも非公開で行われた。マルコヴィッチな家の竣工後、10日間くらいかけて、階段の踏板や、建具にペンキを自分たちで塗った。その初日に、現代アーティスト仲間の山崎りょう、KURO、如月愛が駆け付けてくれた。僕ら4人は、壁塗りに飽きた頃に、一枚の板に白と黒で絵を描いた。途中から参戦した、こどもアーティストのケントも一筆いれた。完成した作品には、新しく結成したペンキ塗りアーティスト集団「Che Debara」のサインが入り、新たなアーティスト集団が誕生した。

ペンキ塗りを終えてから、オープンハウス＆個展の準備。夜な夜な、一人で現場（マルコヴィッチな家）に向かった。準備中に、壁に掛けた作品が次々と落下して、作品も家も壊れたりして途方にくれたこともあった。

オープンハウス＆個展には、4日間で延べ100人近い人が見にきてくれた。建築家の佐々木氏とのコラボイベントだった。人々と話し、作品を見てもらうという、素敵な時間を過ごした。これからも、オープンアトリエ的な展示をやっていこうと思った。次は、来年3月の大森アートビレッジ プロジェクトのイベントにて、オープンアトリエを企画中だ。

上：マルコヴィッチな家の中を走り回る子どもアーティストのケント。

上：仕掛け"Door to void"。

マルコヴィッチな空間で、ペンキ塗りパフォーマンスをする「Che Debara」。

"マルコヴィッチな家"
設計・監理　佐々木善樹建築研究室
http://www.sasstyle.com/

教室講師も絶賛 新しい形状のリング穴「スキップアーチ」

切りやすい
きれいに切れる
紙片除去が簡単

Skip Arch 女性ユーザーにやさしい味方 スキップアーチ

スキップアーチ発売記念
「サンクスブック」好評発売中

HW-2302 F2 ホワイトワトソン 15枚 ¥1,575

muse 株式会社ミューズ
DRAW ON OUR EXPERIENCE 東京都江戸川区臨海町3-6-1
03-3877-0123

はじめに女性のスケッチブックユーザーの声をご紹介します。

『力が弱くなり、厚い画用紙や堅めの画用紙がちぎりにくく、スケッチブックは大変。』『画材屋さんに切り離しを頼んで類に入れてもらっています。』『子供が描いた絵を切り離そうとしたら力が入りすぎて絵まで破けてしまいました。』『切り取った後の切り口のボソボソをもう一回切り直しています。』『リングに残った紙片を取り除くのが面倒です。』

従来の切り口

水彩画愛好家にはシニア年齢層の女性も多く、こうした声は男性や若い方には解りにくいことかもしれません。

ここで紙目と製本そして価格との関係について簡単に触れてみます。スケッチブックの製本でも書籍と同じように紙目のタテとヨコ目に注意が払われています。紙目とは原料のパルプが抄紙機上で方向付けられる繊維の流れのことです。この繊維方向にリングが配置されていると比較的ちぎりやすくなります。またページもめくりやすい向きになります。

ところがこの紙目に従って採寸しようとすると元々紙の全判から切り出す訳ですから面取り都合に制約が加わります。つまり全判から無駄なく採寸すれば5面採寸できるところを紙目に従えば4面しか採れないサイズもあります。

一般的な書籍ではあり得ないことですが、画材紙の高価さからすれば、このことがスケッチブックの価格に反映され高価になることはユーザーの皆様はもちろん弊社にとっても不本意と考えています。ある程度のちぎりにくさはやむを得ないものとして求めやすい価格設定に心がけてきたわけです。

さて、はじめにご紹介した声は長年に亘る課題である一方で利便性の向上に繋がるニーズでもありました。

そこで、この度弊社にて考案した穴形状**「スキップアーチ」**ではリングの通る穴を全く新しい形状に改めました。

結果的にはミシン目と同じ効果が得られ、紙目にあまり関係なくきれいに切り離すことができるようになりました。また従来のミシン目では切り残りがリングに綴じられたままでしたが、**スキップアーチ**では、紙片はあたかもぎざぎざがついた一本の棒状になり、リングのトンネルからそのまま引き出せます。

つまり、容易に切り離しができ、本文の切り口は直線的でボソボソがなく、リング内に残る紙片除去が簡単になりました。

気になるコストは、製本過程が従来とほとんど同じであることから製本コストも従来のままです。

製品化はこの秋口から順次始まり、**スキップアーチ**仕様品にはロゴマークが付されます。現在販売されているブックは、発表記念版でF2サイズのホワイトワトソン紙を用いています。（写真参照）

古田紀彦

1973年埼玉県川口市出身。蕨口自動車整備工場勤務。高校卒業後自動車整備士になりネジと共に20年。2009年3月ワークショップにて初制作。2010年9月ネジ立体製作所開設。所長となる。これからも身近にあるネジたちに愛情をこめ命を吹き込みつづける。

「ネジ立体製作所」ロゴデザイン：島谷美紗子

ネジ立体製作所 古田紀彦 第5回 チャレンジ

ネジ立体制作所所長古田氏です。今回の作品はトレジャーハンターです（イメージはインディー・ジョーンズ!?）。この作品は初の合体作品なんです。いつもはネジ立体作品単体で制作するのですが、幾つかの小物を購入してきて、合体させてみました。そして出来たのがこの作品です。

今回の閃きは後ろ姿の右足です。この右足の動きはめちゃめちゃ気に入っています。この右足を生かす為の合体だと言っても過言ではありませんね。

この作品に対して賛否両論ありますが、何でもチャレンジしてみないと始まりません。やってみなければゼロで終わってしまい、この作品もこの世に産まれてなかったはずです。この先もいろいろチャレンジして行こうと思います。

六杯目

錬金術と命の水

漫画から「錬金術」という言葉を知った人も多いだろうと思う。あの漫画面白いからね！

鉄などの金属から金を作り出そうとしたり、新たな生命を生み出そうとしたり、不老不死の薬を作ろうとしたりするうちに蒸留技術が生まれ、蒸留酒ができた。『アクアヴィット（命の水）』などと呼ばれ珍重された。これがウィスキーの起源。語源は『ウシュクベーハ』ゲール語（英語が普及する前に使われていた言葉）で命の水の意。それまでなかった強いアルコールの刺激と、飲んだ途端に体中が熱くなる感覚が不老不死の薬と勘違いさせたのか。

このウィスキーの成り立ちには他に面白い話がある。

カミニウスという人物がいた。カミニウスは、東方見聞録で有名なマルコ・ポーロと出会う。マルコ・ポーロは東の果ての黄金の国ジパングで手に入れた、米から作った無色透明の薬『エリクサー』を持っていた。カミニウスはこの『エリクサー』を分けてもらい、蒸留し、命の水を作った。『エリクサー』がなくなり、米がないので作ることもできず、代わりにビールを使って作ったものがアクアヴィットという話。この『エリクサー』とは日本酒のこと。日本酒がウィスキーの製金に関わっていたかもしれない。マルコ・ポーロは実は日本には立ち寄っていないという説もあるらしいから、本当かどうか怪しいけどね。

さて、この命の水。薬としてより酒として普及したため政府が酒税をかけた。それを嫌がった人々がシェリー酒に使った樽に入れて人目につかない所に隠した。数年経って見てみると透明だったはずが琥珀色になっていて、飲んでみると荒々しかったものがまろやかに美味しくなっていた。ここから現在のような製法が生まれた。

酒の話には「放っておいたら、あら不思議！！」っていう話が多いね。

静生 *Sai Sei*
酒飲んだり・料理したり・印鑑彫ったり・酒飲んだり・イラスト描いたり・映画見たり・仕事したり・酒に飲まれたり・本を読んだり・モンスターをハントしたり・酒飲んだりしながら日々過ごしております。

Illustration : Piro

butuzohono project

連載

縁（えにし）～仏像奉納プロジェクト～

彫刻家・加藤魏山（かとうぎざん）と仏師・三浦耀山（みうらようざん）が中心となって仏像を彫刻し、被災地に奉納しようという活動を紹介します。

上：撃入れ式後の加藤魏山（左）、三浦耀山（中）、大谷徹奘師（右）。下右：木材に撃を入れる大谷徹奘師。下中央：撃入れ式の様子。下左：撃入れ式で水引をいれたお守り。（Photos by Junichi Takahashi）

第2回 薬師寺東京別院での撃入れ式と原型作成

7月22日、薬師寺東京別院にて二回目となる撃入れ式を行いました。

岩手県大槌町江岸寺に釈迦如来像を奉納させていただくきっかけとなったのは薬師寺執事大谷徹奘師のご紹介によるものでした。今回はその大谷師のご厚意により薬師寺東京別院にても撃入れ式を行わせていただきました。

当日は、大谷師の法話会に参加されていた方々に加えて、私達のホームページやフェイスブックを見て多くの方が集まってくださり、２００名以上の方々が撃入れ式に参加されました。

今年3月11日に大槌町江岸寺で撃入れ式を行ったときは約３５０名の方々が参加してくださいましたので、既に５５０名を超える方々が釈迦如来像と結縁してくださったことになります。大変ありがたいことです。撃入れ式は今後も定期的に行い、奉納までに一人でも多くの方々にこの仏像と縁をもってもらいたいと思っています。

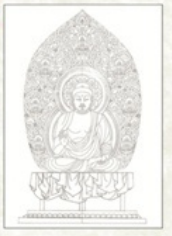
現在、我々は、本番の仏像を作る前段階として１／４の大きさの原型を作っております。

今回、仏像を作るにあたっては、寄木寨割法（よせぎさいわりほう）という技法を用います。これは、まず基準となる寸法で碁盤の目のように線引きされた板材を膠（にかわ）で接合し、その塊で原型仏を彫造します。そして出来上がった仏像を再度解体して、それを大きな村に拡大して写し取り、実際の大きさの仏像を作るという伝統的な技法です。

私、三浦耀山と加藤魏山さんは別の流派の仏師のもとで修行しておりました為、技法も彫ってきた仏像の形も全く違います。このように全く違う場所で修行した者が一体の仏像を協力して作るには、原型の時点でいかに造形のコンセンサスをつけるかが重要になります。現在は原型を交代で彫って、二人の中で今回の仏像をどのような形にするか、時間をかけて検討中です。この原型が完成次第、本番の仏像に入っていきます。

（文：三浦耀山）

上：原型荒彫り。
下右：基盤状に縦引きした板材を膠で接合した状態。
下左：方向性も決まり原型の大まかな形ができたところ。（撮影　三浦耀山）



上：釈迦如来像図面。左：二人で仏像の形について検討をしているところ。

加藤魏山 *Katoh Gizan*
1968年東京、両国生まれ。埼玉県白岡町在住。高村光雲の流れを汲む仏師・岩松独文師の下で修業を重ね独立。仏像の他、日本の古典や歴史を題材とした作品を制作。2004年日展入選。09年「木彫三人展」（日本橋三越本店）、「技と粋-木彫秀作五人展」（大阪タカシマヤ）日本橋三越、大阪、名古屋タカシマヤを中心に発表の他、寺院に納める仏像を建立。12年、大阪タカシマヤにて個展予定。

三浦耀山 *Miura Youzan*
仏師。1973年埼玉県宮代町出身。京都府京都市在住。1996年早稲田大学政治経済学部卒業。一般企業で働いていたが、かねてよりなりたかった仏師を目指し、1999年大仏師渡邊勢山に師事。以後13年に渡り、師のもとで数多くの仏像彫刻・修理に携わる。2011年独立を「耀山」とする。2012年独立。拠点を京都市に移し活動を始める。

◎緑プロジェクトウェブサイト
http://www.butuzohono.org
◎Facebook 仏像奉納プロジェクトページ
http://ja-jp.facebook.com/butuzohono
◎Twitter／@butuzohono_tag

【エリトアア配布先一覧】

◎埼玉県
【さいたま市】ギャラリー健【川越市】尚美学園大学メディアセンター／百丈寺は
◎神奈川県
【藤沢市】ayuco
◎千葉県
【千葉市】画廊　椿
◎東京都／23区
【中央区銀座】Oギャラリー／画廊ろたん／ギャルリー志門／柴田聖子画廊【中央区京橋】ギャラリー椿／ギャラリーたつか【江戸川区】ブカスス絵画教室【荒川区】ギャラリー画廊【太田区】アトリエ ろれっと【江東区】Gallerie Ｃｏｎｔｅｍｐｏｒａｉｎｅ／手織遊戯さをり／レイアートスクール【新宿区】The Accompost Center／ミ、Takao Art／atelier／えすぱすミラボオ／ギャラリー絵夢／gallery 板／ドリードギャラリー【世田谷区】GALLERY ノラヤ／ギャラリー現／古賀良博／前【豊島区】現代 HECHITSU【練馬区】ギャラリー空【千代田区】ギャラリーかのー／文房堂ギャラリー／Cafe drop-cafe／アーツ代田ｓｔｕｄｉｏ／ギャラリーTG／風雅庵 ART・BATT【豊島区】atelier brasier【港区】麻布十番ギャラリー／Pupum Gallery
◎東京都／多摩地域
【国立市】ギャラリーモンド／ギャラリーゆりの木【国分寺市】Cafe Mew／watch yasu【立川市】石田倉庫アトリエ【武蔵野市吉祥寺】アート吉祥寺／Cafe & Galeria PARADA／Gallery 偶SATORI／手織工房しょうた／ベルベット吉祥寺店
◎愛知県
【豊橋市】スペース樂遊館
◎大阪府
【大阪市】Cafe Bookshop & Cafe
◎兵庫県
【神戸市】ポレポレ書舗
◎長野県
【東御市】アートハウス【佐久市】ネモファニチャー
【須坂市】塩屋冨士山記念館【松本市】まつもと市民芸術館
◎大分県
【大分市】ミハルス
◎福岡県
【福岡市】重平　赤坂茶房

※その他都内中心に関東圏約80カ所に設置。
◎配布先の詳細はエリトアのホームページをご覧ください。
エリトア ホームページ
http://eareatoa.com/

お知らせ
◎今号のアートと2人の生活は休載いたします。
◎エリトアでは宣伝・広告を掲載希望の個人様、団体様を募集しております。
◎設置をご希望の方は別途ご案内をいたします。
◎本誌へのお問合せ等は編集部まで、お気軽にご相談ください。
エリトア編集部
eritoa@mail.goo.ne.jp
◎facebook エリトアファンページでも最新情報を随時発信中。

【編集後記】
「日本人には無理」と言われた種目で見事金メダルを獲得したロンドンオリンピックの選手が言っていた「自分が無理と言われたわけではないですから」。
世論、常識、固定観念を突き抜けて活躍することなく、自分を信じ挑戦をしていく心を持ち続けていたい。
２０１２年１０月　木村和弘

発　　行　元／スタジオ ちっぷる
制　　作／エリトア編集部
表　紙　作　品／栗真由美 2011年「buildscrowd」
表　紙　ロ　ゴ／高橋きぼりお

エリトア

第6号　2012秋

2012年10月15日発行

エリトア編集部　〒350－1101 埼玉県川越市大字的場2835－5－201　http://www.eritoa.com/　E-mail eritoa@mail.goo.ne.jp
編集・発行人／木村和弘

◎本誌掲載の文章、写真、イラストなどの無断転載・複製（コピー）は禁じられております。

www.kitori.jp

家具．家．店　作ります。

家具工房 木とり　042-525-4403 / kagu@kitori.jp
190-0013　東京都立川市富士見町2-32-27 No.5